

まほるば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第93号

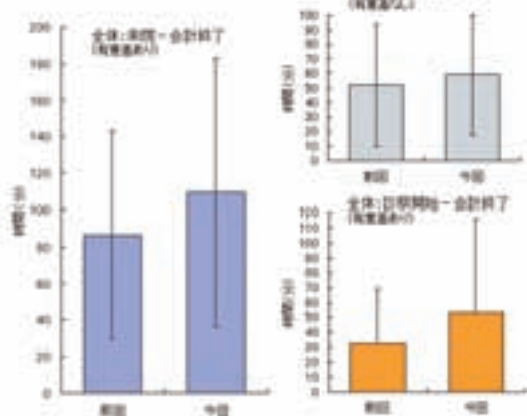
2009年4月発行

【第3回 外来「待ち時間・待ち意識」調査を実施】

当院の医療サービス向上委員会は外来待ち時間・待ち意識の改善に取り組んでいます。

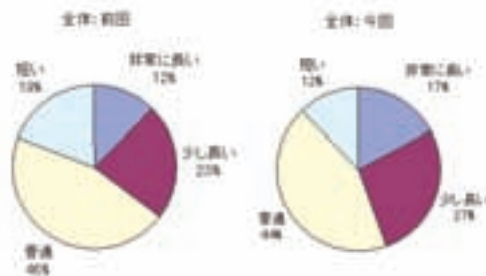
第1回、第2回の外来患者様（ご家族）へのアンケートから「待ち意識」が来院から診察開始までの時間に相関するものどのように待ってもらうかも待ち意識に大きく影響することが分かりました。そこで外来各科では「出来ることから取組もう」の精神で、待ってもらう間に診察の進行状況を説明する、声掛けを頻回に行う、番号札を渡す、テレビの設置等の対策を行ってきました。今回行った第3回目の調査（平成21年2月26、27、3月2日）はそれらの取り組みの効果の検証になります。

【待ち時間】



さて結果ですが、前回（第1回目、平成20年5月29、30日、6月2日調査）に較べて患者様が「病院で

【待ち意識】



費やす時間」が長くなってしまいました。来院から診察開始までは7.1分（14%）、診察開始から会計終了までは20.4分（62.2%）来院から会計終了までの時間は23.1分（26.7%）、の延長でした。一方「待ち意識」は、非常に長い1、少し長い2、普通3、短い4として点数評価すると、前回（平均2.71）に比して今回（2.50）は悪化してしまいました（有意差あり）。なおテレビを設置した整形外科では前回との比較で待ち時間に差はないものの、待ち意識はやや改善の傾向（有意差なし）が見られました。

「待ち時間」が延長してしまったことが「待ち意識」の改善を妨害したという結果になりましたが、なぜ待ち時間が延長したかを検証するとともに、待ち意識改善の取り組みをさらに徹底させる必要があります。しかし、待ち意識の改善にはやはり待ち時間そのものの短縮が不可欠であることを痛感しています。

外来看護師長 須藤 美代子
臨床研究部長 泉井 亮

「職種間のコミュニケーションはとれていますか」平成20年度医療安全研修会開催

3月12日（木）大会議室において第8回リスクマネジメントフォーラムが開催されました。これは全職員を対象とした医療安全研修会の一環で、職種を超えて74名が参加しました。

今回、初めての試みとしてロールプレイングを取り入れての事例分析をおこないました。

事前にお願した演技者に日常場面の再現を演じていただき、参加者は問題点や対策、よりよい伝達・情報交換の具体的方法をグループに分かれて討論し発表しました。準備した4題のシナリオは、当院でのヒヤリハットの事例やテキストから書き下ろし、リアルな場面展開、迫真の演技に参加者らはうなずくことしきり。



ロールプレイングでは演ずる側（演技者）とそれを見る側（観察者）との双方で、日頃の自己の行動を振り返るきっかけとなり、その後の態度や行動の改善、問題解決能力の向上が期待されます。



参加者からは「患者を中心とした医療の場において、エラーを修復し重大事故を引き起こさないためにはチームワークが重要で、職種間のコミュニケーションや伝達、連携の大切さをあらためて確認するよい機会となった。」などの声が寄せられました。

副診療放射線技師長 庄司 俊雄

「郷土料理を再発見！ —津軽料理遺産—

「津軽料理遺産」、ご存知でしょうか？

これは、「純和風の食材を使用」し、「伝統的な調理法」を用いた「歴史・ストーリー性が詰まった」、県中南地域県民局「津軽料理遺産認定・普及委員会」が認定した133点に及ぶ津軽伝承の郷土料理のことです。認定料理は、委員会が募集を行い認定した、日本全国の「津軽料理遺産・伝承店」で味わうことができます。（オフィシャルウェブサイトでは、認定料理一覧やレシピ、伝承店マップが紹介されています。）伝承店には、目印に招き猫ならぬ「招き布」が飾られています。



では、実際にはどんな料理が認定されているのでしょうか？

分類項とその代表的な料理を挙げてみます。「米料理（ごはん）」ごま飯・若生（薄くて柔らかい1年昆布）

おにぎり、「米料理（漬物）」紅鮭とたけのこの飯すし、「米料理（甘味）」うんべい・しとぎもち、「鱈料理」鱈のじゃっば汁・タツ汁、「山菜料理」ぜんまいの白和え・みずとホヤの水物、「漬物」りんごの丸つこ漬け、「汁物」けの汁、「酢の物」さめのすくめ、「和え物」サモダシのおろし和え、「煮物」大鰐温泉もやしの炒り煮、「焼き物・炒め物」なすのしそ巻き、「その他」ばっけ（ふきのとう）みそ、「本物の一品」豆なます…等々。

中でも、大根・ごぼう等の根菜類とふき・わらび等の山菜類、それに油揚げ・凍豆腐等の大豆製品を細かく刻んで煮込み、味噌で味付けした「けの汁」は、大鍋に作りおいて、台所を預かる女性達が小正月をのんびり過ごすための料理として、津軽では昔から親しまれてきました。各家庭で入れる材料も味付けも少しづつ違い、これぞまさしく「家庭の味」。

県南・県外の方は勿論、津軽地方の方も、是非この「津軽料理遺産」、ご賞味いただきたいと思います。

入院係 工藤 真叔

新生児蘇生法講習会Aコース

2月28日（土）地域医療センターにおいて新生児蘇生法講習会が行われました。



今回はAコースとして、医師（小児科、産科）、新生児医療施設の看護師、助産師が対象で、当院と健生病院職員合わせて6名が受講しました。（インストラクター：佐藤啓医師と野村）。前回のBコース（一次コース）に較べるとじっくり、納得いくまでの習得ができたのではないかと思います。

今回の目玉はシナリオに基づくグループでの蘇生で

す。リーダーと実際の蘇生を行うメンバーに分かれ、シナリオを理解しながらリーダーが指示を出します。30秒毎の評価をしながら、次のステップへ向かいます。日ごろ行っていることですが、これには判断する力が問われます。

受講者には少し緊張もみられましたが、楽しい時間でもありました。終了後には「明日からの診療への自信につながる」と感想がありました。最後のイベントであるテスト終了後の記念写真をご覧くださいませが、良い雰囲気でした。

協力いただいた杉山師長、杉本先生、医学部学生のみなさん、ありがとうございました。

小児科医長 野村 由美子

—リンクナース委員会—

当院のリンクナース委員会では、2月25日（水）に第1回感染管理ベストプラクティス報告会を開催いたしました。感染対策ベストプラクティスとは、感染対策の視点で考えた最も良い看護実践の方法をいいます。現在の看護手順の工程を見直し、工程の段階で感染対策上どんな危険性があるのか、どんな根拠に基づいて、どのようにしたら良いのか、参考文献を学習し、リンクナース委員会で半年かけて討議し、作成したその方法を発表しました。

今回、私は「結核の疑いがある患者様への受診時の対応」について発表させていただきました。問診の際

職員は入室時、N-95マスクを装着する

フィットチェックを必ず行う

1. マスクの上を手を置いて、息を吸ったり吐いたりして、鼻や頬の周辺から空気の漏れがないことを確認する
2. 密着する位置にマスクを合わせる

N-95マスクは着用のために調整する必要がない。
ただし、汚染した場合や濡れた場合は適宜交換する。

レントゲン室など室外に出る場合、患者にはサージカルマスクを装着してもらう

サージカルマスクを装着する

患者にサージカルマスクを渡し、装着してもらう

正しく装着しているか確認する

1. ワイヤーを鼻の形に折る
2. ギャザーは下向き
3. 顎まで覆う

サージカルマスクを手渡し

咳がひどい時、採痰する場合などは個室へ案内する（カンファレンス室）

ドアは閉める

空気予防プレートを表示する

に3週間以上続く咳や発熱などの結核が疑われる患者様が受診された時に患者様や職員がマスクを装着するタイミングや装着時のポイント、また、患者様の待合室を換気する方法などについて当院の設備や環境状況に合わせて検討し作成しました。

今回のベストプラクティスの遵守率は、大幅に改善しましたが、今後も感染対策の方法を全てのスタッフが守り、実践に活かしていくことは、看護部の理念でもある「患者様に安心と満足していただける確かな看護」を提供させていただき第一歩につながると考えます。

外来看護師（リンクナース） 三浦 みどり

市民講座 2月25日「人工膝関節置換術後のリハビリテーション」

当院では人工膝関節置換術を行う患者様が非常に多くいます。中でも特に女性の高齢者の患者様が多くの日々のリハビリを頑張っています。

手術後のリハビリはプログラムに沿って行われています。主に行っている練習は、①膝関節を曲げ伸ばしをする②両方の脚の力をつける③平行棒内・松葉杖・T字杖歩行の3つです。その他、階段昇降や自転車こぎの練習も行っています。退院後は膝に負担をかけないように杖を使ったり、補助具を使ったり、また生



活様式を変えるなどの工夫が必要になります。

現在、入院と通院でリハビリを行っている患者様やこれからリハビリを行う患者様で、リハビリなどについて何かお聞きになりたいことがありま

したらリハビリスタッフまでお気軽にお話し下さい。対応いたします。 運動療法主任 佐藤 洋

【シリーズ】臨床検査のABC 細菌検査シリーズ①

今月から細菌検査シリーズに入ります。

細菌検査室では、主に一般細菌検査、抗酸菌検査、迅速検査を行っています。

最初は一般細菌検査についてお話しします。

一般細菌検査（一般細菌・真菌など）

塗抹検査（グラム染色）、② 培養検査、③ 同定検査、④ 感受性試験を実施しています。

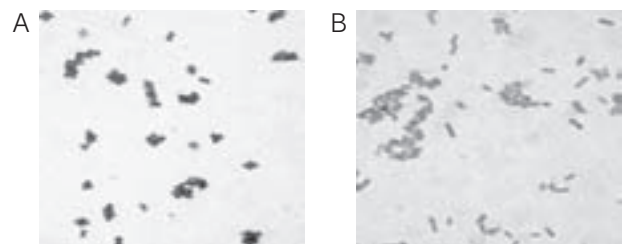
今回は①の塗抹検査（グラム染色）について説明します。

検査材料（痰・尿・膿など）をスライドガラスに塗り染色後顕微鏡で観察し、色や形態、白血球の細菌貪食の有無によって細菌の種類や起病菌を推定する検査で染色性の違いによってグラム陽性菌とグラム陰性菌に分けられます。

・グラム陽性菌（球菌・桿菌）：紫色に染まる

・グラム陰性菌（球菌・桿菌）：赤色に染まる

写真参照



陽性球菌

陰性桿菌

次回は培養検査を予定しています！！

臨床検査技師長 高橋 俊英

☆卒業式を終えて☆

平成21年3月5日54回生39名の卒業式が行われました。昨年の7月に新校舎へ引っ越しをし、新校舎での初めての卒業式となりました。



国立病院機構青森病院長の和賀忍先生ほか多くの来賓の方々や病院関係者、父兄に見守られる中、佐藤年信学校長より一人ひとりに卒業証書が手渡されました。学校長、来賓の方々より温かい励ましの言葉をいただき、その後卒業生代表細川真佳さんが、「看護とは患者様の不安や苦痛などの変化に気づき、援助や関わりを通じてその不安や苦痛を軽減し、少しでも快適な環境を整えることです。このような看護をするため

にも日々の学習を怠らず、これからも自分自身の向上に努めていきたい。」と述べ、最後は退場する際に全員が「ありがとうございました」と礼をし、卒業式を無事終えることができました。

54回生は初めて社会人入試で入学した学生もおり、個々さまざまな状況の中で3年間乗り越えることができたのは、個人の努力はもちろん周囲の支えがあったからこそだと思います。これまで54回生を温かく見守り、ご指導いただいた皆様に心より感謝いたします。

卒業生それぞれがこの3年間で看護を学んだことを基盤とし、自分が考える「看護」が実践できるようこれからも学び続ける姿勢を忘れず前に向かってほしいと思います。

看護学校教員 3学年担任 丹内 留美子

—青森県消防学校学生研修を実施して—

今年も2月26日・27日の2日間、消防学校の研修を行いました。目的は「救急患者が運ばれ、病院では、どのように治療・処置がおこなわれているか理解する」ということから、実際に救急搬送された患者様が処置・検査・治療等がどのように行われるかを講義と見学、演習を通し体験できるよう計画しました。

16名の研修生は、救急搬送される患者様を待ちながら、救急に関する講義と演習、見学は1日目ICU・手術室、2日目放射線科・検査科・機能訓練室・母子医療センター・救急外来へ行き、各職場の長から特徴や機能などの説明があり、母子医療センターでは産ま

れたばかりのお子さんを見て「かわいい」と声を出す人もいて、実際の場面に触れ感動したことが伝わってきました。

研修中救急車による患者は搬入されませんでした。が、病院の機能を少しでもわかってもらえたのではないかと思います。

この研修を終え4月からは実際に救急車に乗車することが決まっているそうです。

市民のために活躍を願って……………

副看護部長 岡本 弘子

☆ 春の特別メニューはいかがでしたか？ ☆

2月・3月は春の特別メニューとして天丼を実施しました。

2月は海老・キス・茄子・シシトウを使用した天丼でしたが、「海老が硬すぎる、タレが甘すぎる、もう少しタレをかけて欲しい」と、手厳しいお言葉をいただきました。

3月は食材にこだわり再挑戦！海老だけを使った“丼の王道”の1つでもある海老天丼としました。絶妙な頃合いで揚げられた海老に秘伝の甘辛いタレ（だし汁・しょう油・みりん・砂糖）をかけて一口頬張ると、押し寄せてくる幸福感、プリプリ海老の食感を存分に楽しむことができました。サクッとおいしい弘前病院特製の海老天丼を、心ゆくまで堪能して頂けたと思います。

※冬季限定メニュー【マグロ漬丼・海鮮丼・はらこ飯】はしばらくお休みします。今冬までお待ち下さい。

先日のある講演会で特に心に残った言葉があります。「**おいしいと感じた時に生きる力が湧く！**」おいしいものを食べると人は幸せな気持ちになります。

これからも食べられることに“感謝の心”を忘れずに“食べる喜び”を伝えていきたいと思います。

主任栄養士 野呂 直子



ふるさと紹介 — むつ市（下北） —

ふるさと紹介とのことですので、私が高校まで過ごしたむつ市（下北）について簡単に紹介したいと思います。最初むつ市のホームページによると昭和34年9月1日に「大湊田名部市」として合併し、翌年の8月1日に全国初のひらがなの市「むつ市」に改称されています。最近、川内町、大畑町、脇野沢村の3町村と合併し、現在のむつ市に至っております。

さてむつ市（下北）の観光については皆さん良くご存知だと思いますので今回はあまり知られていない情報を発信したいと思います。



- ①釜臥山からの夜景：夜のあげはちょうと称されるほど感動的な夜景。
- ②猿ヶ森砂丘（下北砂丘）と猿ヶ森ひば埋没林：内

陸部を含めると鳥取砂丘より大きく日本最大と言われている。

- ③斗南丘牧場：濃厚なソフトクリームやのむヨーグルトが美味しい。
- ④下北ワイン（サンマモルワイナリー）：国産ワインコンクール欧州系品種・白部門で初出品ながら銅賞を受賞した。
- ⑤東通の手打ちそば：田屋のまさかりや・そば処、絶品とのうわざ。
- ⑥川内の赤貝：最近、特に注目されおいしいと評判になっている。
- ⑦『ひがしどおり和牛』：東京芝浦食肉市場で行われたあおもり和牛枝肉共励会で、最優秀賞を受賞した県No.1の和牛。

その他、紹介することは色々ありますが今回はこれくらいにしておきます。是非機会が御座いましたらお出かけ下さい。

臨床検査技師長 高橋 俊英

★【川柳募集】

あなたの川柳をお待ちしています。正面玄関川柳ボックスへどうぞ！

※広報誌編集委員会で選出し掲載いたします。

お知らせ

※毎月、第4水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。

次回は、4月22日（水）午後5時40分からの予定です。

◆ 苦情・相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。

なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>